

2013年度 学校評価報告書（大阪聖母女学院中学校・高等学校）

学校目標 (園目標)	<ul style="list-style-type: none"> 自分を大切に、隣人を自分と同じように愛することができる、心の豊かな女性を育てる 自分の能力を最大限に伸ばし、将来の夢を実現できる女性を育てる 「平和の天使」として積極的に社会に貢献する、自立した女性を育てる
---------------	---

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 建学の精神の徹底と教育力の向上 入学者の安定的確保 環境の整備 一体感の醸成 財政の健全化
------	---

学 校 自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標			年 度 評 価 (2014年3月31日 現在)			
番号	大目標	重点目標	具体的方策	取組の成果	次年度への課題と改善	
1	建学の精神の徹底と教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ①宗教行事・ボランティア活動などによる「心の教育」の充実 ②英語教育への取り組み、海外研修などによる「国際理解教育」の展開 ③自学自習習慣の確立による学力の向上 ④教職員の「建学の精神」への理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> ①練成会、創立記念ミサなどの宗教行事を実施し、カトリックの精神に触れるとともに自己を見つめる機会とする。 ・定期考査最終日のボランティア活動、タイ国際ボランティア活動などへの積極的参加を呼びかける。 ②英検の全員受験、TOEFL junior、放課後のEnglish Hour等を継続実施する。 ・海外語学研修等を継続実施するとともに、フランス文化交流について、従来交流していた学校とは異なる学校と新たな交流を開始する。 ・カナダから留学生(高校)を受け入れる。 ③放課後の自学自習への積極的参加を呼びかける。 ・定期考査後に「復習・定着の時間」を設けて学力の定着をはかる。 ・ルミエールノート、能率手帳によって計画的な学習習慣の確立をはかる。 ④建学の精神の唱和と宗教研修の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ①本校の「カトリック教育」「心の教育」を多くの生徒・保護者が肯定的に評価する結果となった。 ・多くの生徒が積極的にボランティア活動に参加し、「奉仕の精神」を学んだ。 ②本校の「国際理解教育」を多くの生徒・保護者が肯定的に評価する結果となった。 ・フランスの学校との新しい交流がはじまり、異文化体験の良い機会となった。 ・身近に留学生と接することで自然な形で国際感覚が養われる効果があった。 ③放課後の自学自習に参加した生徒の80%が、自学自習の習慣確立に効果があったと感じる結果となった。 ・復習・定着の時間の設置により、必要に応じて学期ごとの学習内容を復習する時間が確保された。 ④教職員の「建学の精神」への理解が深まった。 ・学校評価アンケートで、学校の取り組みに対して生徒・保護者とも高い評価が得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①宗教(道徳)の授業内容の充実をはかる。また、放課後に「聖書の時間」を設けるなど聖書に触れる機会を増やす。 ②英検の受験回数を見直す。 ・TOEFL junior受験者を拡大し、より多くの生徒が世界への視野を広げる契機とする。 ・English Hourを、グレードを2つに分けて実施し、より効果的な実力養成をはかる。 ・フランスの学校との連携の強化、タイの学校との連携を模索する。 ③放課後の自学自習における質問コーナーや、チューターの設置を検討する。 ・復習・定着の時間の時期や運営方法について再検討する。 ④教職員の宗教研修によりキリスト教と「建学の精神」への理解を深める。 	<p>実施日 2014年4月26日</p> <p>学校関係者からの意見・要望・評価等</p> <p>2014年1月から3月にかけて学校評価アンケートを実施した。本年度の学校評価アンケートは、特に大目標1「建学の精神に基づく教育の徹底」とその重点目標への具体的取り組みの成果をはかるため、第1群「学校生活全般について」、第2群「心の教育について」、第3群「国際理解教育について」、第4群「自学自習に関して」の4群34項目で構成し、回答形式はAそう思う、Bどちらかといえばそう思う、Cどちらかといえばそう思わない、Dそう思わないの4択形式とした。学校評価委員会で、このアンケートの結果分析に基づき考察をふまえて、</p> <ul style="list-style-type: none"> ①アンケート分析と自己評価の内容が適切か ②重点目標や自己評価の評価項目等が適切か ③次年度への課題と改善の取り組みが適切かという観点から評価をおこなった。 <p>①自己評価の結果の内容についてアンケートの結果、生徒・保護者の学校の取り組みに対する肯定的評価の割合が、全体的に昨年度にくらべて増加していることから、本年度の学校の取り組みに対して一定の評価がなされていることが確認された。本校の生徒・保護者が学校に対して非常に協力的であることを学校としても大切にしていよいよ教育活動を展開していくことが重要である。今後は肯定的評価のなかでもA評価の割合に注目しA評価を高める努力が必要であるという意見があり、学校もその方向で取り組むこととなった。</p> <p>②重点目標や評価項目等について「心の教育」、「国際理解教育」は、本校の教育の柱として重要な課題であり、また「自学自習習慣の確立」は生徒の学力向上のために必要不可欠であることから、これらを今回のアンケートの質問項目として取り上げ考察したことは適切であった。またアンケート第1群で例年と同じ全般的な質問をすることで昨年度からの比較を行ったところ、全体的に肯定的評価が増えたこと等、一定の評価を得られた。「心の教育」は目に見えない領域であり高い評価を得にくいものではあるが、本校の教育の柱として今後も大切するべきである。「国際理解教育」に学校として今後も力を入れていく方針は適切である。</p> <p>③課題と改善の取り組みについてアンケート結果から、本校の生徒・保護者の学校に対するロイヤリティの高さがうかがえる。よりよい学校を目指すため、生徒・保護者の前向きな姿勢を学校もしっかりと受けとめることが大切である。</p> <p>この他、情報公開と情報発信についての意見交換が行われた。学校が適切な時期・内容で情報発信をおこなっていくことが、生徒・保護者の学校に対する信頼と満足度を高め、ロイヤリティを向上させること、また発信する情報の基となる教育活動の重要性が再度確認された。</p>
2	入学者の安定的確保	<ul style="list-style-type: none"> ①様々なイベントを企画・実施し、積極的かつ効果的な広報活動を展開して来校者の増加をはかる ②来校者を志願者・受験者に結びつける工夫を検討・実施する ③塾等の訪問・営業活動を強化し知名度の向上につとめる ④入試制度改革を検討・実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ①本校で実施する各イベントの内容を精選し実施するとともに、女子中フェア・キリスト教学校フェア・私学展などの学外イベントの機会を積極的に活用し、本校への来校を促す。 ②クイズラリー等による「明るく楽しい」イメージづくりと、体験授業等による教育内容のアピールを行う。 ③訪問、DM、FAXなど様々な手段を用いて塾とのコンタクトの機会を増やす。 ④中学に自己推薦入試を導入、高校で3科目入試を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学外イベントにおける相談者は大きく増加し、また本校でのイベントへの来校者も増加した。特に中学生(高校入試)の増加が目立った。 ②体験授業は保護者を含む来校者に良い印象を与えることができた。 ③特に高校入試に関して、相談者・受験者を増やす結果となった。 ④中学の自己推薦入試では、本校の希望に合致する受験生の入学を実現できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①入試広報の体制を強化し、マーケティングを含む入試広報戦略の見直しと情報発信の工夫をはかる。 ②相談者、来校者の一層の増加をはかるとともに、来校者を受験者・入学者へつなげる取り組みをすすめる。 ③知名度を高める方策を検討・実施する。 ④入試制度の枠組み全般の見直しを行う。特に、中学入試について入試日程等も含めて検討し改善する。 	<p>②重点目標や評価項目等について「心の教育」、「国際理解教育」は、本校の教育の柱として重要な課題であり、また「自学自習習慣の確立」は生徒の学力向上のために必要不可欠であることから、これらを今回のアンケートの質問項目として取り上げ考察したことは適切であった。またアンケート第1群で例年と同じ全般的な質問をすることで昨年度からの比較を行ったところ、全体的に肯定的評価が増えたこと等、一定の評価を得られた。「心の教育」は目に見えない領域であり高い評価を得にくいものではあるが、本校の教育の柱として今後も大切するべきである。「国際理解教育」に学校として今後も力を入れていく方針は適切である。</p> <p>③課題と改善の取り組みについてアンケート結果から、本校の生徒・保護者の学校に対するロイヤリティの高さがうかがえる。よりよい学校を目指すため、生徒・保護者の前向きな姿勢を学校もしっかりと受けとめることが大切である。</p>
3	環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ①耐震・リニューアル工事を継続実施し、安全・安心な教育環境の整備を行う ②構内の各種施設・設備を点検し、必要な改修・補修を行うことで安全の確保につとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ①耐震・リニューアル工事を一環として、B棟・C棟3階の上部構造改良工事を実施する。 ②予定されているB棟・C棟の耐震・リニューアル工事を計画する。 ③火災報知器、放送設備等の点検整備を実施する。 ④ベルナデッタホール2階のWC改修工事を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①B棟・C棟3階の上部構造改良工事を完了し、安全・安心な教育環境の整備に大きく前進した。 ②B棟・C棟3階の有効活用を含めて検討した。 ③点検整備の結果、老朽化した部品交換等を実施し、安全・安心の確保につとめた。 ④ベルナデッタホール2階のWC改修工事の実施により、明るく清潔なWCを設置するとともに、障がいを持つ方への配慮に大きく前進した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①B棟・C棟の耐震・リニューアル工事の実施によって香里キャンパス耐震・リニューアル工事を完了させる。 ②電気設備・水道設備その他、校内の各種施設・設備の点検整備を行い、必要な改修・補修を行うことで安全の確保につとめる。 	<p>この他、情報公開と情報発信についての意見交換が行われた。学校が適切な時期・内容で情報発信をおこなっていくことが、生徒・保護者の学校に対する信頼と満足度を高め、ロイヤリティを向上させること、また発信する情報の基となる教育活動の重要性が再度確認された。</p>
4	一体感の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ①ホームページ等を通じて情報を公開し、「開かれた学校」づくりを進める ②保護者への情報発信をすすめ、保護者と学校との連携を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> ①「トピックス」による各種イベントのお知らせの更新を増やし、常に新しい情報を発信する。 ・学校の教育活動の実際を、情報としてホームページで発信する。 ②学校便りや学年便りによって学校や生徒の様子を保護者に伝える。 ・授業参観や学年会・学級会を企画し、保護者が来校する機会を増やす。 ・懇談週間を中心に随時個人懇談を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①トピックス更新に対する反応が、学校のホームページからの各種イベントへの申し込みや問い合わせとしてあらわれ、効果が確認された。 ・来校者や受験者へのインタビューやアンケートを通じて、ホームページへの注目度が確認された。 ②学校評価アンケートで、学校のさまざまな情報発信は多くの保護者から肯定的に受け止められている結果が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ホームページの更新を継続し、タイムリーな情報発信を行う。 ・ホームページで発信する情報、すなわち学校の教育活動そのものの充実について、教職員が共通認識をもつ。 ・ホームページ以外の効果的な情報発信方法について調査検討する。 ②保護者への情報発信への満足度を向上させる工夫をする。 	<p>この他、情報公開と情報発信についての意見交換が行われた。学校が適切な時期・内容で情報発信をおこなっていくことが、生徒・保護者の学校に対する信頼と満足度を高め、ロイヤリティを向上させること、また発信する情報の基となる教育活動の重要性が再度確認された。</p>
5	財政の健全化	<ul style="list-style-type: none"> ①予算編成と予算執行の適正化についての教員の意識向上をはかる ②業務に対する教員の意識向上により、勤務効率の向上と時間外労働の縮小削減をはかる 	<ul style="list-style-type: none"> ①法人財務課の協力を得て、予算編成と予算執行を適切に行う。 ②事務室の協力を得て、ウェブフローによる予算執行を円滑に行う。 ③自己評価書の作成を通じて、自らの業務内容についての意識と理解を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①予算編成と予算執行に関して、昨年度に比べて確実に適正化の方向に進んでいる。 ②ウェブフローによる予算執行は、ほぼ円滑に行われるようになってきている。 ③全体として、業務についての意識は向上の方向にあり、分掌や教科、学年などが協力しあうことにより、時間外勤務の発生はある程度抑えられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①物品や時間についてのコスト意識の一層の向上をはかる。 ②校務分掌のあり方や行事など、学校全体としての業務の精選・スリム化を推進する。 	<p>この他、情報公開と情報発信についての意見交換が行われた。学校が適切な時期・内容で情報発信をおこなっていくことが、生徒・保護者の学校に対する信頼と満足度を高め、ロイヤリティを向上させること、また発信する情報の基となる教育活動の重要性が再度確認された。</p>